

みんなで作るひょうごの福祉



支え合って、目指せ完走

「ぽっかぽか共生マラソン大会」

「ゴールの喜び 誰にでも」

今回は、年齢や障害の有無にかかわらず、参加者が励ましかつてみんながゴールできる共生マラソン大会を実施した、宝塚市の「NPO法人ぽっかぽかランナーズ」を紹介するよ。

年齢、障害の有無を問わず、自分のペースで

2月24日、早春の武庫川河川敷に、約250名のランナーが集まった。幼児から高齢者まで年齢層は幅広く、車いす利用者や知的障害者、難病を抱える人も多い。

主催するのは、「NPO法人ぽっかぽかランナーズ」。理事長の林さんの次男は難病患者であるが、マラソンが大好きなため、多くの仲間と走れるようにと平成25年に同法人を設立。マラソン銀メダリストの有森裕子さんの



スタート前、笑顔いっぱいの参加者たち

アドバイスも得て、障害ランナーのマラソン参加を支援してきた。具体的には、障害者に伴走するボランティアの紹介、歩行が困難なランナーが使う足こぎ車いすの貸し出しなどだ。

以来、次男と仲間は、各地の大会に出場したが、時間制限を設ける大会が増え、途中で断念せざる

を得ないなど悔しい思いもしてきた。そこで、参加者が励ましかつて、みんながゴールの喜びや達成感を得られる独自の大会を企画した。

さまざまな工夫を取り入れ、ユニバーサルな大会へ

「ぽっかぽか共生マラソン大会」には、各地の大会に参加して気付いたことをさまざまな工夫として盛り込んだ。例えば、1往復1.5kmのコースを、何度もすれ違い励まし合えるようにし、体力に応じた多様な部門を用意。リストバンドを計器にタッチするだけでタイムを測定できる仕組みも導入した。また、ボランティアの伴走ランナーの育成に努めたり、障害者が使いやすい更衣室の設置など態勢も整えた。

ひょうごボランティアプラザからの助成金や、企業からの協力・協賛も活用し、地元宝塚市からは、小学校への広報、ノウハウや資材の提供など全面的な協力を得て、地域社会との連携も深めた。「多くの関係者の協力で開催



励まし合いながらゴールへ（左下は、リストバンド）



できた。参加者からも、来年も参加したいとの声を頂き自信になった」と林さんは振り返る。

年齢や障害の有無などを超えて、地域社会をつなぐユニークな取り組みの展開に期待したい。

取材を終えて

多くの人を巻き込んだ大会になげた林さんのバイタリティーある姿が印象的でした。笑顔でゴールするランナーの姿を見て、共生社会について改めて考えるきっかけとなりました。

認定特定非営利活動法人

ぽっかぽかランナーズ

宝塚市売布山手町6-1-1

TEL: 0797-8518846